

# 魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:小島 美和

所属:東大阪市立花園北小学校

記録日: 2016年 2月 15日

キーワード:「わかる」実感を求めて、自分なりの「学びやすさ」を知る取り組み

「書きの困難」「教科学習」「通常学級での使用・漢字学習」

## 【対象児の情報】

○学年 小学5年生の男児

○障害名 「書き」及び「集中の持続」の困難

○障害と困難の内容

- ・検査結果から処理速度(特に「符号」)に極端な落ち込みがみられ、「書きうつす」活動が著しく困難である。
- ・言語面で学年相当の理解力はあると思われるが、できることとできないことの差が大きい。
- ・漢字について、読むことはできるが、想起が困難で書けない。
- ・漢字は書けないが、自分の考えを書くことには大きな困難はなく、スピードは遅くない。
- ・見通しの立たないことに対して取り組みにくく、「できない」ことが続くとやる気を失っている。
- ・集中が続かなく、授業中に寝てしまうことが毎日のようにある。4年生より通級指導教室に入級し、週に数回の個別指導を開始したが、個別指導の場でも起きていられないことがあった。

## 【活動目的】

・当初のねらい

自分にとっての「学びやすさ」を知り、自分なりの学習方法で自信を持って通常の学級での学習に参加できるようになる。

①通常の学級で、特異的な困難が認められる「書きうつす」学習場面においてタブレット端末を活用することで、授業内容に集中して参加できる時間を増やして理解を促す。

②想起の課題が大きい漢字の習熟について、「選ぶ」「調べる」といった学習方法を体験しながら、自分なりに効率のよい学習の仕方について身につけさせていく。

・実施期間 2015年4月から1年間

・実施者 小島 美和

・実施者と対象児の関係 通級指導教室担当として週に3~4回指導

## 【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

### ①通常の学級において

- ・板書でも手元見本でも「書きうつす」ことに極端に時間がかかり、間違えることが多く、最後まで取り組めない。
- ・「書きうつす」活動だけで力を使い切ってしまう、内容理解にまでない。
- ・「できない」という体験の繰り返しで、「どうせわからない」と授業に向かえず、寝てしまうことが多い。
- ・テストに取り組む意欲もなく、ほとんど取り組まずに終わることが多い。

### ②個別学習の場で

- ・学年相当の漢字を読むことはできるが、書くことができない。
- ・漢字の想起が困難で、3年生の漢字もうまく浮かばない。
- ・漢字テストに記入すること自体、放棄することが多い。
- ・漢字の宿題はまったくしてこない。

○活動の具体的内容

①通常の学級では、**タブレット端末を使いながら授業に参加しよう**

・カメラ機能を使って、連絡帳用小黑板の内容を撮影しておき、下校までにノートに書きうつすようにした。

・板書を撮影した写真を「One Note」に入れ、自分の考えやメモしたいことを入力できるようにした。

・12月以降は本児が「入力しやすい」「しっかり拡大できる」という「タッチ&リード」を使用するようになった。



②個別学習の場合では、**「調べて」書こう**

・見本の漢字を見ながら「うつして書く」から、「常用漢字筆順辞典」のキーワード検索を用い、自分で選んだ漢字を書くことにした。その際、字によっては、筆順や字のバランスを確認するようになった。

・意味調べでは「例解学習国語辞典」を使用した。



○対象児の事後の変化

①通常の学級において

**書きうつす活動では**

・量が少なく、パターンの決まっている連絡帳なら、カメラ機能を使ってうつして書けるようになった。

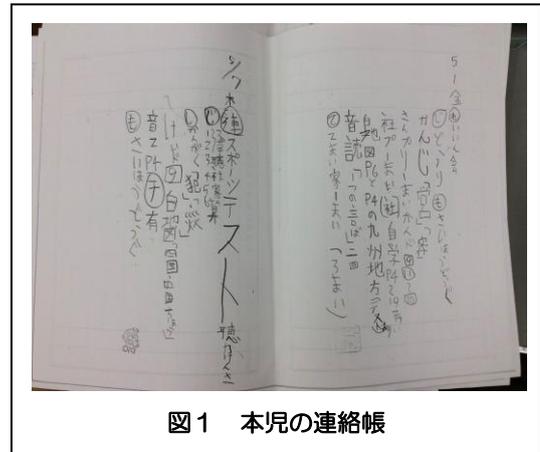


図1 本児の連絡帳

**授業中にタブレット端末を使うようになり**

・書きうつす量が減って時間に余裕が出てきたので、撮影したものの下や中に、自分の意見やわかったことを書くことが増えてきた。そのため授業内容に関係のあることを考えるようになった。ただ、残しておくのが恥ずかしくて、記入したものを消すことも多い。ペア学習の際には、タブレット端末の画面を友達に見せながら、自分の意見も言えるようになってきている。調子のいい時には、挙手しての発言もするようになった。

・寝てしまうことが減り、授業に参加することが増えた。授業の内容をほぼ理解できるようになった。

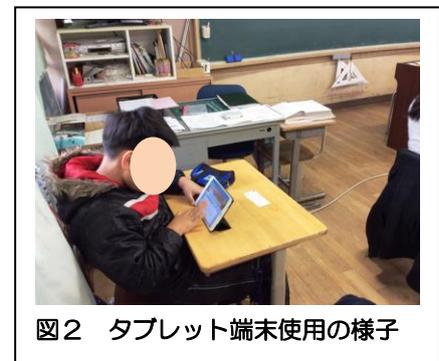


図2 タブレット端末使用の様子



図3 「One Note」を使用して

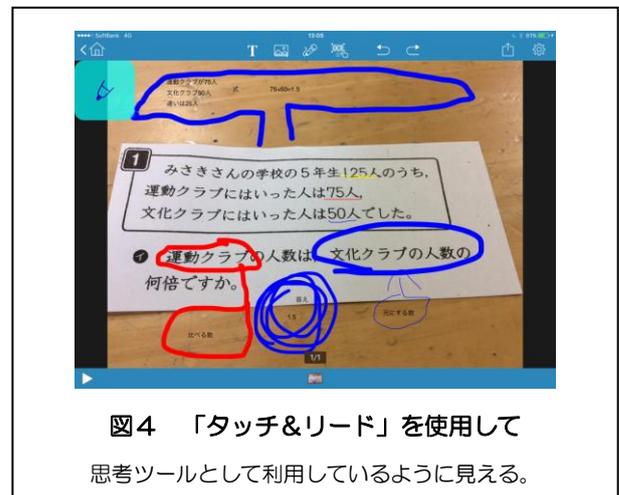


図4 「タッチ&リード」を使用して  
思考ツールとして利用しているように見える。

## ☆1月の様子

本児の在籍する学級で1月末に校内研究授業があった。その日を含めて数回通常の学級での様子を参観した。眠そうにした時も、タブレット端末に自分の意見を書き込んだり、電卓アプリで計算した答えやメモをスクリーンショットで撮って「タッチ&リード」の画面に貼りつけたり、ペア学習をしているうちに、授業内容に関係のあることを考えるようになっていた。研究授業でも、タブレット端末を使用しながら考え、ペアの児童に自分のたてた式を見せながら説明する姿を全校の先生に見てもらうことができた。終わってから「緊張したあ〜」と言っていたが、満足気な顔が印象的だった。

## ②個別学習の場で

・自力で読みから正しい漢字に変換できるようになり、一定時間、意欲的に漢字を書くことができるようになった。

・学校で宿題をして帰るようにしたことと「調べて書く」方法を用いたことで、図5のような漢字プリントであれば短時間で書ききれなくなった。

・想起自体はなかなか上がらず、調べて書いても細かいミスは残るものの、自分で間違いを意識するようになり、バランス的には整った字が増えてきた。図6は何も見ずに書いたものである。全く書けない「備」以外は何となく頭に浮かんでいるようである。図7は調べて書き直したものである。「健」は下側がつきぬけていなかったという細かいミスにも気づくことができた。

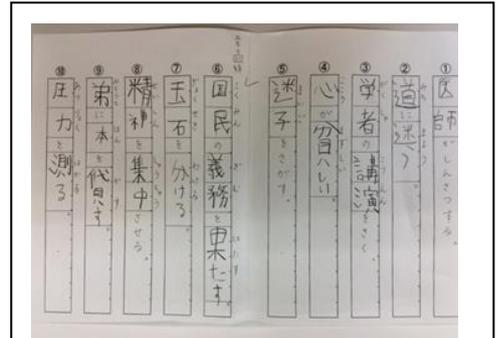


図5 漢字の宿題

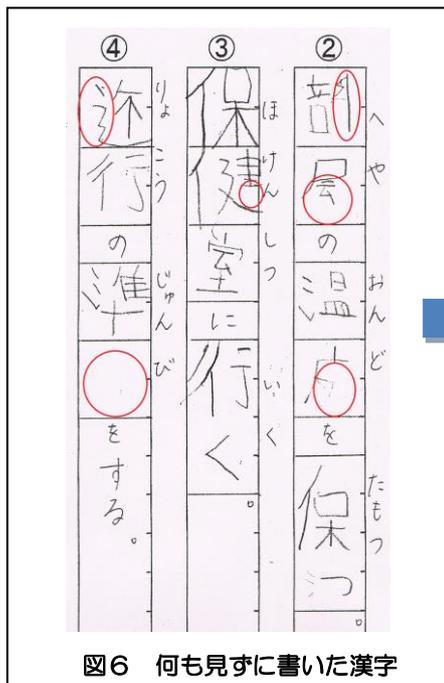


図6 何も見ずに書いた漢字

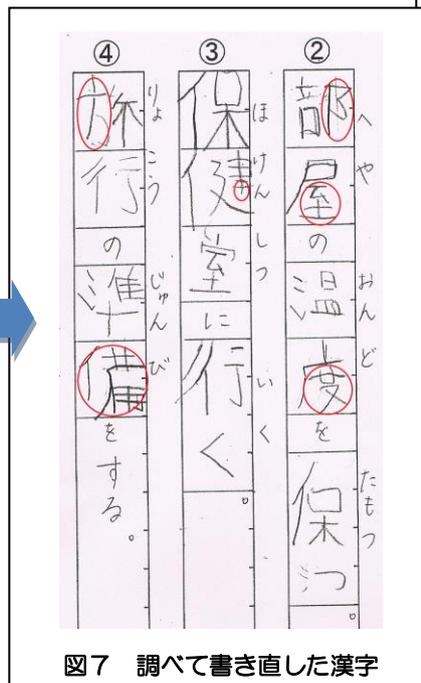


図7 調べて書き直した漢字

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

①通常の学級における「書きうつす」量を軽減したことによって、「聞く」「考える」「自分の考えを書く」時間が増えた。そのことにより授業の内容を理解できるようになったのではないかと。また、タブレット端末を操作しながら授業に関係したことを考えるようになり、注意がそれることが減り、寝る時間が減ったのではないかと。

②漢字学習において「書きうつす」ことから「調べて書く」ことになり、考えながら書くようになった。「書きうつす」という単純作業では頭の中に入らず、学習の持続が難しかったが、課題を認識しながら「調べる」ことによって「ああ、そうか」と考え、納得しながら書く漢字学習になったのではないかと。

○エビデンス(具体的数値など)

思ったことや考えたことを、吹き出しをかけた中に入力するようになってきている。いろいろなことを書いては消しながら、理解を深めているように見える。

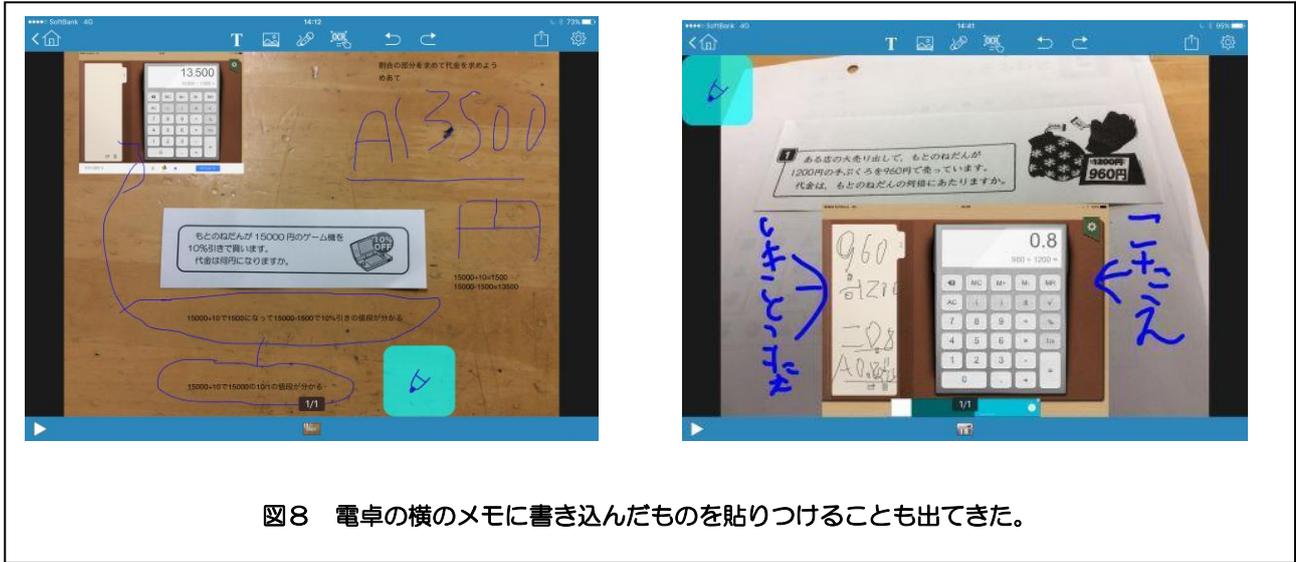


図8 電卓の横のメモに書き込んだものを貼りつけることも出てきた。

・理解が深まったことにより、テストにも取り組めるようになった。以前は白紙に近い状態で出すことが多く、評価できない状態であり、本児も平気であった。しかし、最後まで取り組めるようになり、テストで6割以上取れることが増えた。

・「調べて書く」ことを繰り返すことにより、自分の間違いを確認できるようになってきた。細かい間違いが減り、正しい漢字を書けることが増えてきた。点数としては厳しいものもあるが、漢字テストにも自力で取り組めることが増えている。



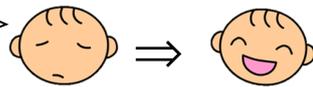
図9 最近のテスト

○その他エピソード

本児にタブレット端末を利用するようになって、どう気持ちがか変わったのか聞いてみた。その時、「Word」の画面を開いて自分で表情の違う顔のイラストを選びながら説明してくれた。

①通常の学級に持ち込んだことについては

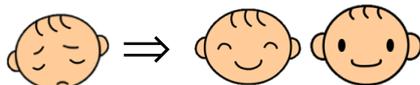
タブレットがなかった頃は、聞くことに集中できなかった。



とにかく安心できる。写真に撮っておいたら、自分で書くことが少なくなって、聞くことに集中できるし、先生の言っていることがよくわかるようになった。特に「タッチ&リード」はズームができるから書きやすくなった。

②漢字学習で使ったことに対しては

うつすだけだとすぐに眠くなっていた。



調べると気分がいい。調べたら「そうか、これが足りなかったのか・・・」と自分の間違いがわかるようになった。満足、満足・・・

## 【今後に向けて】

### 授業中の使用方法について

当初は本児の学習した証としてタブレットをノート代わりにしようと考えていた。しかし、板書を撮影したものを手元においてみたり、自分の意見やメモを入力したりしながら考えるという思考ツールとして活用しているように思える。考えた後は記入したことを消すことも多く、今後タブレット端末でのノートテイクに持っていくのか、紙ベースのノートを補助するためのものにするのか、一緒に考えていく必要がある。

### 自力解決の方法として

個別学習の場では、「調べて書く」など自力解決できる学習方法を身につけていき、「わかる」実感を持たせていきたい。

### 中学校進学に向けて

タブレット端末の授業中の使用方法や使用した際の評価について、中学校と調整する必要がある。また、進学する中学校に通級指導教室がないため、個別学習の場をどうするのか、環境調整面でも中学校や関係機関と協議していきたい。